

式 辞

畑の前河川敷にも肱川の暖かい風がそよぎ、春らんまんの花匂う今日の佳き日に、令和六年度 愛媛県立大洲農業高等学校入学式を、多数の御来賓の皆様のお臨席を賜り挙行できますことを、心から感謝申し上げます。

ただいま入学を許可いたしました五十名の新生の皆さん、入学おめでとうございませす。皆さんの入学を、在校生・教職員一同、心より祝福いたします。

本校は、大正十四年に愛媛県大洲高等農業補習学校として開校されて以来、地域の皆様方の熱い思いに支えられ、今年で創立百周

年の大きな節目を迎えます。この記念すべき年に入学される皆さんには、大洲農業高校に入学したという誇りを持ってほしいと思います。そして、これまで自分を支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、これから三年間、思う存分その才能を伸ばしてください。高等学校は、これまでの義務教育とは異なり、皆さんが自らの意志で選んだ学びの場です。自分の行動に責任を持ち、進んで学ぶ姿勢を持ち続けてほしいと思います。

このような歴史と伝統のある本校の校訓は「どこに出しても恥ずかしくない人間になれ」「国家社会の役に立つ人間になれ」という二本の柱から成り立っています。これは、将来の国家及び地域の有為な形成者として、

伝統の継承と郷土愛を育み、国際的視野を持った人間を目指すことを諭しています。今日から始まる高校生活を送るうえで、皆さんにはこの言葉を胸に、勉学や部活動等の様々な活動を通して友情を深め、たくましく成長してもらいたいと思います。

また、本校には「武士に士魂あらば、我等に土魂あり」という農場訓があります。第十代校長である二宮幸一先生が定められ、今日まで数多くの先輩方がその精神を受け継いできました。農業を愛する心意気を土魂と称し、様々な関係機関と連携しながら農業教育に取り組んでいます。その中で、皆さんは大地とともに心を耕し、地域を担う優れた人材として成長してほしいと心から願っています。

最後になりましたが、保護者の皆様には、無事今日の日を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げます。私ども教職員一同、大切なお子様をお預かりします以上は、本校に入学して本当によかったと思っただけ卒業していただけるよう、力の限り教育に当たりたいと考えておりますので、どうか、家庭と学校が車の両輪となってお子様の成長を支えることができませんよう、ここに改めて本校の教育活動に対する御理解と御支援をお願い申し上げます。式辞といたします。

令和六年四月八日

愛媛県立大洲農業高等学校長 永井 伊秀